

ニュージーランド キウイフルーツの出荷開始に多くの期待

[FreshPlaza 2024年5月30日](#)

「生産者の間で前例のない楽観主義」

キウイフルーツの出荷シーズンの開始に当たり、ニュージーランドのキウイフルーツ生産者グループは、生産者の間でかつてないほど楽観的な見方があると報告している。執行責任者のコリン・ボンド氏は、一部の園地はサイクロン・ガブリエルの影響を受けたが、大半の果樹園は今年の収穫で収益を上げる軌道に乗っていると指摘した。ゼスプリによる1ヘクタール当たりの収益予測は昨年の数値を大幅に上回り、特にグリーンキウイ生産者の予想収益は昨年の6万4,930NZドルから7万5千~9万1千NZドルに増加した。ゴールドキウイ生産者は、前シーズンの14万3,537NZドルをわずかに上回る14万5千~16万6千ドルの収入を得ると予測されている。(1NZドル=約96円)

同氏は、まだシーズン序盤であると断りつつも、収量と市場価格の高さが大きな収益をもたらす可能性を強調した。ゴールドキウイフルーツのアジア向けの初出荷は、好調なシーズンの始まりを告げるものである。バックパッカーが大量に流入し、労働力の問題は解消した。ゼスプリのダン・マシソンCEOは、ニュージーランド産キウイフルーツへの旺盛な需要を強調し、同社は今シーズン、約1億9千万箱の輸出を見込んでいる。しかし、同氏は、特定のカテゴリーのキウイフルーツについては、市場の課題や為替レート、特に日本の円安の悪影響等のリスクについても指摘した。

出典: sunlive.co.nz

トルコ サクランボの出荷量は少ないが粒は大きい

[FreshPlaza 2024年5月31日](#)

トルコの青果物輸出業者の販売コーディネーターであるイギット・ギョキギット氏は、トルコ産サクランボの出荷シーズンがようやく始まり、さらに3つの地域で間もなく収穫が始まるとして、「弊アラナル社はまだ自社農場の収穫を開始していないが、契約生産者のサクランボの出荷を今週開始した。来週には自社の果樹園でサクランボを収穫する予定である。弊社の果樹園はトルコのマニサ、チャナッカレ、アフィヨンの3つの異なる県にある。アフィオン県では、6月末頃に収穫が始まる予定である」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

アラナル社2018年に国内最大のコングロマリットの1つであるタクフェン・ホールディングスに買収された。買収後、グループは主にサクランボ、イチジク、アンズ、スモモ、ブルーベリーなどの果樹園に巨額の投資を行った。ギョキギット氏によると、この投資により、アラナル社が収穫するサクランボの量が何年にもわたって毎シーズン着実に増加する。「まだ比較的若い果樹があるので、収穫量は年々増加する。約5年後には、自社の果樹園から年間2千トン以上のサクランボが収穫される見込みである。天候の影響で、今年はかなりの量の収穫が失われた。シーズン前には自社農場から600トンの収穫を予想していたが、最大400トンのサクランボが収穫できる見込みである。」

生産量が少ないことは、今シーズンが成功でないということではなく、同氏は昨年よりも品質が良く、粒も大きくなっていると指摘する。「今年はかなりの量のサクランボを失ったが、例年に比べて品質が良く、粒も大きくなると予想している。今年は、既存の取引先だけでなく、新しい市場からも大きな引き合いがある。例年どおり、今年もドイツが主要市場になると予想している。また、中欧と北欧での売上拡大も見込んでいる。今シーズンは、中東や太平洋アジア地域の新たな取引先とも協力していく。」

「トルコでは多くの地域でサクランボの生産量が大幅に減少した。そのため、今年は出荷量が例年の半分以下になると予想している。この販売量の減少により、厳しいシーズンになるだろう。トルコ産サクランボの需要は高まると思うが、出荷できる量が不足しているため、需要を完全に満たすことはできないかもしれない。」

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)